



# 千葉大学 (千葉県)



日本人学生との協働学習、地域における実践的な体験、修了レポートの作成を通して、日本の言語、文化、社会の多様性・普遍性を理解し、グローバルな観点から日本を捉えられるようになることを目指しています。

## ■大学紹介

### ① 大学の特色および概要

1) 1949年に発足した総合大学で、規模、内容とも国立大学法人の上位にあります。文学、法政経、教育、工学、園芸、理学、医学、薬学、看護の9学部に加え、2016年4月には国立大学としては初めての国際教養学部が開設されました。また、大学院として人文社会科学、教育学、理学、工学、園芸学、融合科学、看護学の各研究科および医学薬学府、専門法務研究科が置かれています。

- ・学部学生定員：9,878名
- ・大学院学生定員：2,905名
- ・教授、准教授、講師、助教、助手：1,335名

2) 2014年に日本社会のグローバル化を牽引する「スーパーグローバル大学」に選ばれ、文部科学省の重点支援を受けています。留学生の受入れや派遣を積極的に行っており、2016年5月現在、約800名の留学生が学んでいます。留学生の日本での生活をサポートするインターナショナル・サポートデスクも設置されています。

<http://www.chiba-u.ac.jp/international/isd/index.html>

3) 幅広い視野、批判的思考力、豊かな人間性を養うことを目指して行われる教養教育が充実しており、アクティブラーニング、協働学習を取り入れた授業が多数開講されています。

### ② 国際交流の実績

千葉大学は35カ国159校と大学間交流協定を結び、活発に交流を行っています。2016年5月現在、協定校からの留学生が100名以上在籍しています。

### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

	留学生数	日本語・日本文化研修留学生
2016年	787人	6人
2015年	787人	9人
2014年	819人	10人

### ④ 地域の特色

日本語・日本文化研修留学生が学ぶ西千葉キャンパス（千葉市）は、東京から電車で約1時間、成田国際空港から車で約45分のところにあります。人口約96万人を有する千葉市は、気候が温暖で物価も比較的安く、生活しやすいところです。また、千葉県は水と緑の豊かな自然に恵まれています。地域の環境については千葉県のホームページも参照してください。<http://www.pref.chiba.lg.jp/>

## ■コースの概要

### ① 研修目的

(a) 日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のための研修を行うもの

### ② コースの特色

#### 1) プログラムの位置づけ

日本語・日本文化を専攻し、将来にわたって日本研究を続ける意思のある学部留学生のためのプログラムです。アカデミックな日本語能力を養いながら、日本に関する専門的な知識を習得し、研究能力を高めることを目的としています。

また、実地見学や日本人との交流を通して日本理解を深めることにも力を入れています。

#### 2) 日本語学習

各自の日本語能力のレベルに応じた日本語コースに参加し、総合的に日本語能力の向上を図ることができます。

### 3) 日本文化・日本社会に関する学習

日本事情や日本語に関する様々な授業が履修できます。ほとんどが日本人学生との協働授業のため、異なる視点や認識が交わる中で理解を深めることができます。授業の中には、フィールドワークやインターンシップの活動が組み込まれたものもあります。

また、こうした学習と並行して、各自のテーマについて約10カ月かけて調査・研究を行う修了レポートが全員に課されます。

### ③ 受入定員

大使館推薦7名、大学推薦3名

### ④ 受講希望者の資格、条件等

#### 1) 資格

大学において最低2年間の日本語教育を受けており、日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在学していること。

#### 2) 条件

日本語能力試験N2合格程度以上の日本語力があり、以下のような運用能力を有することが条件です。

- ・日本語で行われる留学生向けの基礎的な講義や演習を理解することができる。
- ・自分が興味のある一般的な話題で会話を続けることができる。
- ・漢字1000字以上を習得し、一般的な日本語の文章を、辞書を使いながら読むことができる。
- ・一般的な話題で1000字程度の説明文、意見文を書くことができる。

日本に関係する特定の分野について研究上の関心を持ち、帰国後も研究を継続する意思のある学生、日本に留学した経験のない学生を積極的に受入れます。

⑤ 達成目標

日本の言語、文化の多様性を理解し、それらをグローバルな観点から捉えられるようになること、基礎的な学術日本語の運用力を習得することが目標です。

⑥ 研修期間

2017年10月1日～2018年8月31日（11ヶ月）  
・秋学期：2017年10月1日～2018年2月中旬  
・春学期：2018年4月上旬～2018年8月上旬  
（千葉大学はターム制を取っており、学年暦は4月から始まるため、秋学期は第3ターム＋第4ターム、春学期は第1ターム＋第2タームとなります）  
修了式は8月中旬を予定（2016年は8月5日）

⑦ 研修科目の概要

下記の研修科目を中心に、18単位以上履修しなければなりません。各タームは8週間の授業があります。科目名の後の〔 〕内の数字は、授業時間数です。

1) 必須科目

特別研究（文系）A・B〔各30〕：各自の研究テーマで修了レポート（6000字以上）を作成していくための授業で、演習形式で行われます。4名の授業担当教員から指導を受けることができます。7月にはレポートの公開発表会を開催し、その成果はレポート集として刊行します。

これまでのレポートのテーマの一例  
・お笑いのツボ：日本のお笑い芸人が使う、人を笑わせるテクニック  
・現代のメディアにおける織田信長のイメージ  
・現代日本語の謝罪表現の使い分けについて  
・J-POPの作詞方法：表記のバリエーションとその効果

2) 見学、地域交流等の参加型科目

特別研究（文系）C・D〔各30〕：日本の歴史や民俗文化が表象されている博物館を、海外から訪問した人たちがどのような見方や考え方で観賞するとよいかについて考察する。その考察に基づいて展示案内（ワークシート）を企画し、それを母語で作成する。

言語文化交流演習〔30〕：千葉大学で開講される外国語の授業に母語話者として参加する。自分の言語、文化への理解を深めることができる。

3) その他の講義、選択科目等

以下の1)日本語科目、2)日本を学ぶ（人文科学系）、3)日本を学ぶ（社会科学系）を中心に、各自の日本語能力や専攻に合わせて履修科目を選択します。

(1)日本語科目

中級以上の4つのレベルのいずれかに入り、各学期3科目以上受講します。通常、2学期目には一つ上のレベルに進みます。

日本語 500 中級	総合〔90〕・口頭表現1〔30〕・口頭表現2〔30〕・文章表現〔30〕・文法〔30〕・漢字〔30〕
日本語 600 中級後半	読解1〔30〕・読解2〔30〕・口頭表現1〔30〕・口頭表現2〔30〕・文章表現〔30〕・文法〔30〕・漢字〔30〕
日本語 700 上級前半	読解〔30〕・口頭表現1〔30〕・口頭表現2〔30〕・発表資料作成〔30〕 読解〔30〕・聴解〔30〕・レポートの書き方〔30〕・文法詳解〔30〕
日本語 800 上級	口頭表現〔30〕・レポートの書き方1〔30〕・レポートの書き方2〔30〕・発表資料作成〔30〕 読解〔30〕・口頭表現1〔30〕・口頭表現2〔30〕・レポートの書き方〔30〕・文法詳解〔30〕

※日本語500、600は各学期同じクラスが開講されます。日本語700、800は上段が1学期目、下段が2学期目のクラスです。



(2)日本を学ぶ（人文科学系）

日本人の精神・伝統文化A〔15〕：日本の文化・社会・宗教などを題材にした講義。その題材に基づき、教員、学生とのディスカッションも行う。

現代日本人の生活様式A〔各15〕：日本社会において見かける（あるいは経験する）であろう生活上の慣習を概説し、日本人の精神的な部分を考えるきっかけをつかむ。

日本イメージの交錯A・B〔各15〕：留学生と日本人学生が、「日本」をめぐるイメージについて様々な素材・角度によって議論を行う中で、物事を相対的に考える視座を身につける。また、日本人のもつ外国へのイメージなどの検討も加味する。

日本アジア文化交流史A・B〔各15〕：日本とアジア諸地域との文化交流を歴史的に振り返る中で、その意義・役割を検討し、今後の関係性を模索するための素材とする。

日本語の文法〔30〕：日本語の品詞における語形変化や文法的カテゴリーについて学習し、受講生の様々な疑問に答える。

日本語の諸相〔30〕：日本語を、空間的な広がり、時間的な奥行きなどから多角的に認識し、さらには近隣諸言語との関わりを考察する。

(3)日本を学ぶ（社会科学系）

時事から日本を考えるA・B・C・D（＝日本事情7・8）〔各15〕：新聞や週刊誌などに載った記事を取り上げ、記事の内容が日常生活にどう関わっているかを講義する。その後、その題材をもとに日本人学生と留学生が混ざったグループで、自由に意見交換を行う。

※以下の学部専門科目は、日本語・日本文化研修留学生を積極的に受け入れています。\*を付した一般学生用の科目以外は、留学生向けまたは留学生に配慮した日本人学生との合同授業です。

文学部専門科目

日本研究入門〔30〕、多言語多文化接触論a・b \*  
〔各30〕

教育学部専門科目

国際理解教育演習Ⅰ・Ⅱ〔各30〕、日本の教育事情Ⅰ・Ⅱ〔各30〕、教育記事を読むⅠ・Ⅱ〔各30〕、異文化とコミュニケーション〔30〕、国際社会の情報教育〔30〕

これ以外の千葉大学で開講されている一般学生向けの授業も、担当教員の許可が得られれば受講することができます。

(2)、(3)の科目はウェブページで詳しい情報を見ることができます。

<http://www.chiba-u.ac.jp/campus-life/syllabus/>

#### ⑧ 年間行事

10月	ウェルカム・パーティー
11月～1月	日本文化紹介プログラム：浴衣を着る、婚礼衣装の紹介、折り紙、茶道体験、書道体験
11月	見学旅行〔房総のむら・佐原・成田山〕
12月	ホーム・ビジット
1月	ホーム・ステイ（1泊2日）
6月	歌舞伎鑑賞教室
8月中旬	修了式



※このほかにも、大学主催の「ユニバーサル・フェスティバル」（留学生による文化紹介の催し）や、小学校などで行われる国際交流活動に参加して、自分の言語や文化を紹介する機会があります。

※サークル活動や大学内で行われる留学生のための行事にも参加することもできます。

#### ⑨ 指導体制

国際教養学部所属する以下の教員がガイダンスや個別指導を通して学業面、生活面のサポートを行います。

吉野 文（専門：日本語教育学、応用言語学）

西住 奏子（専門：日本語教育、語用論）

研究テーマがあり、専門指導を受けたい場合には、その分野の教員を紹介するなど、できる限り配慮します。

#### ⑩ コースの修了要件

研修科目の概要に掲げた授業科目を中心に18単位以上履修し、修了レポートを提出して合格と認められた者に修了証書を授与します。学習時間は概ね480時間以上になります。

受講科目を登録し、一定の成績を修めた科目については、単位修得証明書を発行します。参加者への送付は、2018年10月中旬になります。

## ■ 宿 舎

千葉大学国際交流会館（単身用）に優先的に入居できます。過去3年間日研究生は全員が入居しています。寄宿料・共益費（インターネット接続料金込）は月額19,000円（光熱水料等は除く）です。このほかに、入館の際に15,000円必要です。国際交流会館のある稲毛から西千葉キャンパスまでは電車（一駅）です。徒歩または自転車でも通学できます。

## ■ 修了生へのフォローアップ

日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了者に対しては、個別に進路相談などに対応しています。修了生の中には国の大学を卒業後、日本の大学院に進学する人が少なくありません。

卒業後は、日本で就職している人、国の日系企業で翻訳・通訳に従事している人、大学で日本語、日本文学の研究者となっている人など、何らかの形で日本と関わりを持っている人がほとんどです。

## ■ 問い合わせ先

担当部署 千葉大学学務部留学生課

住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

Tel： +81-43-290-2193

Fax： +81-43-290-2198

E-mail: [mext-scholarship@chiba-u.jp](mailto:mext-scholarship@chiba-u.jp)

<https://www.facebook.com/cu.ryuugakuseika>

千葉大学ホームページ

<http://www.chiba-u.ac.jp/>

千葉大学国際教育センターホームページ

<http://cie.chiba-u.ac.jp/>

<http://cie.chiba-u.ac.jp/index-e.html>

コース内容に関する照会先

吉野 文 国際教養学部准教授

E-mail: [ayoshino@faculty.chiba-u.jp](mailto:ayoshino@faculty.chiba-u.jp)